令和５年度大分県立特別支援学校第三者評価【評価書】

学校名	大分県立大分支援学校

重点項目	評価項目	評価の観点	評　　価
学校の組織運営	1 校長のリーダーシップ	＊社会のニーズ等を踏まえた学校経営ビジョンの設定 ＊学校目標、学校運営計画の適切な設定と教職員の共通理解 ＊的確・適切なリーダーシップの発揮、教職員からの信頼	校長が強いリーダーシップを発揮して、学校の教育課題等を適切に把握し、改善を図る学校運営を行っている。県内最大の大規模校ではあるが、全体的に落ち着いており、校長を含む管理職のビジョンが全教職員に的確に伝わっている。
	2 組織的運営・責任体制	＊教育目標、学校運営計画との一致 ＊組織的な運営・責任体制の整備、校務分掌の機能 ＊幼・小・中・高の一貫性のある指導体制の整備	ミドルリーダーがよく連携して実りある学校運営に当たっている。 各学部及び分掌の連携が強化されており、組織の総合力の向上に努めており、効果的な運営ができている。
	3 服務監督・危機管理体制	＊内規、危機管理マニュアル等の適切な整備 ＊事件・事故発生時の迅速で適切な対応 ＊法令に則った医療的ケア実施体制の整備	緊急時対応訓練等が適切に行われている。危機管理マニュアルは、現在社会で起こりうる事件や事象に細かく対応して作成されており、評価できる。他校への情報発信を期待する。
	4 家庭・地域との連携、情報提供	＊幼児児童生徒及び保護者の満足度や要望を把握する取組 ＊学校ホームページの活用、学校便りの発行等による情報の伝達・公開の取組	保護者だけでなく生徒にもアンケートを実施するなどの本人のニーズを尊重する取組は評価できる。児童生徒アンケートの効果的な活用を期待している。
	5 センター的機能	＊小・中学校等の要請に応じた巡回相談等への積極的取組 ＊特別支援教育のセンターとしての特色ある取組 ＊組織的に取り組む校内体制の整備	組織的な校内体制が適切に整備され、地域の小・中学校等、積極的に巡回相談などに取り組んでいるが、高校のニーズも高まってきているため、今後の対応が期待される。
学習指導	1 授業	＊障がいの状態や特性、発達の段階等に応じた指導 ＊一人一人の指導目標・方法の共通理解に基づいた実践 ＊学習効果を高めるための外部専門家との連携等の工夫 ＊幼児児童生徒の自主的・主体的な学習への取組	自主性を重んじた学校教育目標が教員間で共有されてきており、教材・教具もICTを活用するなど児童生徒の実態に応じた工夫がされ、児童生徒が意欲的に学習に取り組んでいる。教職員の役割分担も明確にされており、各学部間の情報共有等連携が取れている様子がうかがえた。
	2 指導、支援のための計画の作成と活用	＊チェックリスト等に基づく実態把握の実施 ＊本人・保護者のニーズの把握、ＰＤＣＡサイクルによる指導改善 ＊保護者等と連携した教育支援計画の作成、長期的視点の支援	保護者及び生徒へのアンケートを適切に実施しており、保護者との連携へ向けた取組を行っている。ミドルリーダーを中心に長期的な視点に立ち、取組をすすめていた。
	3 授業研究・授業改善	＊社会のニーズや学校の教育課題等に基づく学校研究への取組 ＊計画的な授業研究の実施等による授業改善への取組 ＊専門性向上のための積極的取組、専門性の高い授業実践	教員の専門性の向上に組織的に取り組んでおり、カリキュラムマネジメントと連動した研究を推進している。教科中心の教育課程の編成の効果に期待するとともに、重度重複の児童生徒への指導について、今後も継続して整理していくことを期待する。
職業教育及び進路指導	1 進路指導	＊組織的なキャリア教育（進路指導）への取組 ＊本人・保護者の進路希望の把握、きめ細かい進路指導 ＊定期的な職場訪問等による状況把握	アンケートの実施や保護者向けリーフレットの作成など進路指導のための取り組みを精力的に実施している。追支援も丁寧に実施されているが、把握する事業所が多岐にわたるので効果的な対応策が検討されることが望まれる。
	2 就業体験の機会の確保	＊福祉・労働施策や関係機関の事業等の情報収集の取組 ＊実習先、就労先等の開拓に関する積極的取組 ＊作業学習等の学習の工夫・改善への取組 ＊地域や産業界等の協力等による就業体験の充実	地元企業のみならず、他市の企業とも連携して職業科の向上に努めており、地域企業との連携や作業内容の工夫が確認できた。 「職業」の学習を通してどのように生きる力を涵養するかというビジョンの確立が望まれる。
	3 職場開拓	＊地域の企業、福祉・労働の関係機関等との密接な連携 ＊教職員・保護者が一丸となった職場開拓	地元企業や他市の企業と連携した製品づくりなど、教職員は積極的に取り組んでいる。
豊かな心・健やかな体の育成	1　社会自立に向けた教育	＊互いの良さを認め合い、豊かな人間関係を形成できる幼児児童生徒を育成 ＊卒業後に必要とされる力を踏まえ、各学部段階において適切に指導	学校全体が落ち着いた雰囲気で児童生徒が楽しそうに活動している。卒業後を考え、情報モラルの教育には積極的に取り組んでいたが、今後は保護者との連携について、どのような取り組み方が最善か検討されることを期待する。
	2　生徒指導	＊幼児児童生徒理解のため保護者や関係機関と連携 ＊障がいの状態等を共通理解し、組織的な生徒指導の取組	大規模校ではあるが、教員が児童生徒の特性を理解し、細やかな教育が行われている。
	3　教育相談	＊専門的な立場のスクールカウンセラー等との連携 ＊教育相談等に関する知識習得や技能向上に向けた取組	スクールカウンセラーの活用率も高く、相談内容を指導に活かしている。
	4　特別活動	＊学校、地域の実態等に即した学校行事、児童生徒会活動等の取組 ＊交流及び共同学習への積極的取組	近隣の学校や居住地の学校等との交流及び共同学習に取り組んでいる。地域連携については、今年度より復活した取組もあった。
	5　安全管理・医療的ケア	＊教職員間で迅速に情報共有する体制が確立 ＊教職員・幼児児童生徒が安全に行動できる取組や環境作り ＊校内の医療的ケア実施体制が整備	朝の交通誘導など、登校時の状況は課題が多いが、安全への配慮が徹底されることを望む。
全般	障がいの状態や発達の段階等に応じた適切な配慮	＊教育活動全般にわたる、障がいの状態や発達の段階等に応じた適切な配慮	大規模校でありながら、教職員同士の連携が密接である。ミドルリーダーを中心に教職員が自信と誇りを持って働いている姿勢が、児童生徒の言動によい影響を与えていると考えられる。

総合評価	大規模校ではあるが全体的に落ち着いており、児童生徒の表情も明るくのびのびとした雰囲気があった。ミドルリーダーの連携意欲が高く「一貫性のある指導」を行う体制が確立できており、眼前の教育だけでなく、進級後の学習の展開、卒業後の「生きる力」を見据えて教育改善をすすめていた。中・高等部生徒へのアンケートも実施し、児童生徒のニーズの把握に務めているため、今後は自己理解を深める進路の取組に期待する。教員の専門性の向上や職業科の改善など、従来からの改善課題は今後も継続することが想定され、教科化のさらなる展開など絶え間なく環境の変化が生じると思われるが、変化の中にあっても今回高く評価された項目が変わらず継続し、ますます発展していくことを期待する。
校長コメント	本年度は、「児童生徒が自分で考え、判断して行動するための指導方法の工夫」「学びの連続性の確保する教育課程の改善」「感染対策、防災体制の強化と防災教育の充実」「働き方改革の取組」の４つの重点目標を設定し、特に、「教育課程の改善」では、小学部では「生活科」を、中・高等部では「社会科」や「理科」を新設して教科中心の教育課程に転換し、小学部から高等部まで一貫した指導が行えるように、１２年間の年間指導計画の作成を進めてきた。また、「シン・大分支援ブランド」として、職業科の作業学習で製作した作業製品の販売をもとに、地域との連携を図ってきた。こうした取組は、児童生徒の主体性の育成にもつながったと思われる。今後も、全職員で学校の教育課題を共通理解し、ミドルリーダーを中心として職員一人一人が参画して課題解決に取り組み、更なる児童生徒の成長と教育活動の改善に努めていきたい。